

越後駒ヶ岳

白沢滑降

1993年5月4日

メンバー：L. 岩毅、清宮政宏、籠島寿一、手塚紀恵子

前日、雨の中、銀山平に車で入る。強い雨なのであまりテントに泊まるのは避けたく、銀山平の民宿をいくつか尋ねたが当然どこも満室だった。結局石抱橋に幕営した。

翌4日は予定通り晴れ、まずは北ノ又川左岸の林道沿いに柳沢出合に向かって出発する。柳沢出合から道行山への尾根は2年前の教訓を生かして、北ノ又川から数えて2番目の支尾根に取りつく。急登あり、雪のない尾根道ありで出合から道行山まではシートラゲンで行った。道行山から百草ノ池までは小倉山南面をトラバースする以外は広い尾根で気持ちよいシール登行ができる。1459m 標高点付近で幕営しているパーティがいたが駒ノ小屋の名物番人によると、あの辺りは熊の尾根越え路にあたり幕営は好ましくないそうだ。百草ノ池から、山はアルペンの景観を見せ、急激に立ち上がる。長い登りに飽きたところに、ググググと山が立ち上がるため、シンドサがなぜか倍加して感じられた。仕方なくここからは、ズズズとスキーを引っ張って登り始める。登山者は結構多いが、ほとんど駒ノ湯からくる地元の人（老若男女いろいろ、長靴の人もいた）で、スキーは我々を含めて3パーティだけだった。駒ノ小屋からは、番人に雪崩防止と水源維持のため登路と滑降ルートを指定された。

快晴の山頂は素晴らしい眺め、が、私は昨夜ねんざした左踵が気になり、

あまり景色に見とれている余裕は無かった。

下りは百草ノ池までは急斜面の大ダウンヒルである、そこそこ柔らかい雪なのでこわくはない。百草ノ池からは思い切って白沢にはいる。今年は3月以降雪が多く、ここも例年より残雪が多い、これをたよりに沢に向かう。

950mの大屈曲点までは順調に滑った（ただし、両岸からのブロック雪崩には要注意）。山頂からだとも1000m 強の滑降高度が得られる。しかし、ここから890mまでのおよそ長さ500mが大変。2万5千匁八海山の”白”の字のところに滝があり、これは、その大きさから言って4月初めでも、出ていると思われる滝である。これの高巻きは左岸に行く。スキーは一か所だけ雪が切れていてはすさざるをえなかった。高巻いたあと滝のすぐ下900m付近でいったん右岸に取りつき、また、デブリを利用して、もう一度左岸にもどる。この辺りからまだ背の低い植林帯となる。890m付近に大きなデブリがあり、再度右岸に行く。ここからはもう平行移動となり、滑ったあとを振り返りながら悠々とした気持ちで滑っていける。ただ、ここから、銀山平石抱橋までは5km弱あり、この平行移動はスキーといえどもアルペンでは結構コタえた。

今回滑った白沢は雪の少ない年だと途中から小倉山、道行山に登り返す必要が生じると思われる。

この銀山平は雪原の向こうに駒ヶ岳中岳を望め、また周囲に荒沢岳、未丈ヶ岳もあり、また悪天時には奥只見スキー場でゲレンデスキーもできる。5月連休に山スキーエリアとしては、思っていたよりはるかに好ポジションと私は思った。

タイム：石抱橋(775m)6:45 — 柳沢出合(835m)7:50 — 道行山(1298m)10:00
 — 百草池(1550m)11:30 — 駒ノ小屋12:30 — 駒ヶ岳(2002.7m)13:00/13:45 — 百草池14:05 — ”滝”の上15:00/15:30 — 白沢出合16:00 — 石抱橋17:00

(岩記)

